

腫瘍・診断病理学分野

論文

A 欧文

A-a

1. Otsubo R, Hirakawa H, Oikawa M, Baba M, Inamasu E, Shibata K, Hatachi T, Matsumoto M, Yano H, Abe K, Taniguchi H, Nakashima M, Nagayasu T: Validation of a novel diagnostic kit using the semidry dot-blot method to detect metastatic lymph nodes in breast cancer: distinguishing macrometastases from nonmacrometastases. *Clinical Breast Cancer* 18(3): e345-e351, 2018 (IF: 2.703)
2. Matsuda K, Kawasaki T, Akazawa Y, Hasegawa Y, Kondo H, Suzuki K, Iseki M, Nakashima M: Expression pattern of p53-binding protein 1 as a new molecular indicator of genomic instability in bladder urothelial carcinoma. *Scientific reports* 8(1): 15477. doi: 10.1038/s41598-018-33761-9, 2018 (IF: 4.122)
3. Otsubo R, Mussazhanova Z, Akazawa Y, Sato A, Matsuda K, Matsumoto M, Yano H, Matsuse M, Mitsutake N, Ando T, Niino D, Nagayasu T, Nakashima M: Sporadic pediatric papillary thyroid carcinoma harboring the ETV6/NTRK3 fusion oncogene in a 7-year-old Japanese girl: a case report and review of literature. *Journal of Pediatric Endocrinology and Metabolism* 31(4): 461-467, 2018 (IF: 1.086)
4. Khan KN, Fujishita A, Hiraki K, Kitajima M, Nakashima M, Fushiki S, Kitawaki J: Bacterial contamination hypothesis: a new concept in endometriosis. *Reproductive Medicine and Biology* 17(2): 125-133, 2018
5. Takada N, Mussazhanova Z, Hirokawa M, Nakashima M, Miyauchi A: Immunohistochemical and molecular analyses focusing on mesenchymal cells in papillary thyroid carcinoma with desmoid-type fibromatosis. *Pathobiology* DOI: 10.1159/000492117, 2018 (IF: 1.592)
6. Shichijo K, Takatsuji T, Fukumoto M, Nakashima M, Matsuyama M, Sekine I: Autoradiographic analysis of internal plutonium radiation exposure in Nagasaki atomic bomb victims. *Heliyon* 4(6): 00666. doi: 10.1016/j.heliyon. 2018. e00666, 2018
7. Ihara M, Ashizawa K, Shichijo K, Kudo T: Expression of the DNA-dependent protein kinase catalytic subunit is associated with the radiosensitivity of human thyroid cancer cell lines. *J Radiation Research* 1-7 doi: 10.1093/jrr/rry097, 2018 (IF: 2.031)
*
8. Shimamura M, Shibusawa N, Kurashige T, Mussazhanova Z, Matsuzaki H, Nakashima M, Yamada M, Nagayama Y: Mouse models of sporadic thyroid cancer derived from BRAFV600E alone or in combination with PTEN haploinsufficiency under physiologic TSH levels. *PLoS One* 13(8): e0201365, 2018 (IF: 2.766)

B 邦文

B-a

1. 藤本成明、松山睦美、中島正洋: 新生仔ラット甲状腺の電離放射線への感受性. 長崎医学会雑誌 93 号(特集号):361-362, 2018
2. 松山睦美、七條和子、土屋 誉、米田純也、近藤久義、松田勝也、三浦史郎、関根一郎、中島正洋: アミノ酸混合物シスチン・テアニンの放射線防護効果: 前投与による急性小腸・骨髄障害と長期生存率への影響. 長崎医学会雑誌 93 号(特集号):367-369, 2018
3. 岸川正大、黒濱大和、松岡優毅、中島正洋: 病理診断科診療所-若手病理育成と人生設計、地域医療への貢献-. 病理と臨床 36(11): 1109-1113, 2018
4. 上木 望、松田勝也、三浦史郎、木下 晃、黒濱大和、赤間史隆、福田大輔、中島正洋: 成人の臀部発生 Spindle cell/sclerosing rhabdomyosarcoma の 1 例. 診断病理 35(4):296-301, 2018
5. 橋本泰匡、寺田隆介、宮下光世、中島正洋: 造影 CT にて術前診断が可能であった穿孔性虫垂室炎. 長崎医学会雑誌 92(4): 278-282, 2018
6. 近藤久義、早田みどり、横田賢一、三根真理子、中島正洋、三浦史郎、高村 昇: 長崎市原爆被爆者の同時性重複癌罹患率に対する被爆距離の影響. 広島医学 71(4):324-326, 2018
7. 大野田 貴、松田勝也、上木 望、山口裕佳、三浦史郎、木下 晃、吉浦孝一郎、中島正洋: 被爆者保存組織の活用を目的としたホルマリン固定パラフィン包埋組織(FPPE)DNA の分子解析試料としての系統的評価. 広島医学 71(4): 339-341, 2018
8. 三浦史郎、近藤久義、松田勝也、ムサジャノワジャンナ、松山睦美、中島正洋: 長崎原爆被爆者組織バンクの経過報告(第 4 報): 凍結保存期間と RNA の品質について. 広島医学 71(4): 335-338, 2018
9. 田淵 聡、柴田良仁、稲益英子、扇玉秀則、小松英明、村岡昌司、山口広之、君野孝二、中島正洋: Pseudo-Meigs 症候群を呈した下行結腸癌卵巣転移の 1 例. 長崎医学会雑誌 93(1): 24-29, 2018

10. 岸川正大、黒濱大和、松岡優毅、中島正洋: 病理をとりまく医療経済 第8回 病理診断科診療所-若手病理医育成と人生設計, 地域医療への貢献-. 病理と臨床 36(11):1109-1113,2018

B-c

1. 中島正洋: 「甲状腺濾胞がん」内分泌腫瘍 甲状腺腫瘍・副腎 (癌診療指針のための病理診断プラクティス) 長沼廣、笹野公伸、青笹克之編集 (中山書店) 127-135

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
2	1	1	1	0	27

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中島正洋・教授	評議員	日本病理学会
中島正洋・教授	評議員	日本内分泌病理学会
中島正洋・教授	非常勤研究員	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	疫学部顧問	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	副会長	長崎県臨床細胞学会
中島正洋・教授	がん対策部会専門委員会(がん登録委員会)委員	長崎県保健医療対策協議会
中島正洋・教授	代議員	日本細胞診断学推進協会
中島正洋・教授	理事	日本甲状腺病理学会
中島正洋・教授	理事	長崎原子爆弾後障害研究会
七條和子・助教	評議員	日本実験潰瘍学会
七條和子・助教	学術評議員	日本薬理学会
松田勝也・助教	理事	長崎県臨床細胞学会

競争的研究資金獲得状況 (共同研究を含む)

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
中島正洋・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 放射線誘発甲状腺発がんリスク亢進の刻印探索
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(A) 国際共同研究による甲状腺がん分子疫学調査研究
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 放射線誘発小児甲状腺がんの分子疫学的研究
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 甲状腺乳頭癌における新規リンパ節転移診断キットの開発
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) ゲノム不安定性が解き明かす非アルコール性脂肪性肝炎の発癌ポテンシャル

中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) ラット甲状腺の放射線感受性と発がんにおけるオートファジーの影響
中島正洋・教授	武田科学振興財団	分担	特定研究助成金 全ヒトゲノム配列で明らかにする放射線被ばく影響の時間的経過とその結果
七條和子・助教	日本学術振興会	代表	内部被ばくの分子病理学的影響検出と周辺細胞の Patho-マイクロドジメトリー解析
中島正洋・教授	味の素株式会社		シスチン・テアニンのラット腸管における放射線防護効果の検討
七條和子・助教	エーザイ・ジャパン		放射線腸炎の発生機構について

特許

平川 宏・助教	癌転移の検出方法および検出用キット	2010年 2月22日	2014年 9月12日	特許第5610125号
---------	-------------------	----------------	----------------	-------------

その他

非常勤講師

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
中島正洋・教授	非常勤講師(病理学)	長崎市医師会看護専門学校
松田勝也・助教	非常勤講師(病理学)	長崎市医師会看護専門学校
七條和子・助教	非常勤講師(病理学)	長崎女子短期大学

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
七條和子・助教	内部被ばくは低線量爆心地付近急性死者で初試算	長崎新聞	2018年 8月4日	臓器の組織標本に残っている長崎原爆特有の放射性物質プルトニウム 239 が今も放出しているアルファ線を調査し、内部被ばくは低線量であることを爆心地付近の急性死者で初試算した。骨髄で0.104 ミリグレイ。50年間体内で被ばくが続いた過程での累積は20.2 ミリグレイだった。内部被ばくの影響は臓器内の放射性物質の集中度合いを考慮することが必要と英ウェブ雑誌ヘリオンに6月29日付けで掲載された。

学術賞受賞

氏名・職	賞の名称	授与機関名	授賞理由、研究内容等
中島正洋・教授	第14回日本甲状腺学会基礎医学研究助成受賞	日本甲状腺学会	全ゲノム解析による放射線誘発甲状腺癌発症課程の解明:癌化リスクバイオマーカーの探索

○特筆すべき事項

- ①中島正洋: セメイ市長荣誉賞 (the Certificate of Honor)
- ②中島正洋: セメイ州立医科大学名誉教授